

♪ ああ われらは解放子ども会 ♪

— 解放子ども会の歌に込められた願いと、私たちの課題 —

○知識・理解

○関心

中学校1年

1 題材設定の趣旨

本校では、解放子ども会との合同学習会や同和教育特別委員会などの活動を生かしながら、身の回りの差別を見抜くことができるような体験的な活動を取り入れた学習から、あらゆる差別を許さず、それを解決していくことができるような生徒の育成を目指してきた。

本校に入学する生徒たちは、小学校で解放子ども会との交流会や集会所見学を経験している。しかし、解放子ども会はいじめや差別をなくすための勉強をしている友だちがいる所であるという意識はあるものの、解放子ども会と部落差別との関連性が薄く、その活動の中心には同和教育問題があることを意識している生徒は少ない。また、会員たちが「どういう願いを持って、どのようなことを、どのように取り組んでいるか」について関心は薄い。そのため、解放子ども会そのものの存在が、自分とはかけ離れたものとしての受けとめになっている。

そこで、解放子ども会員の取り組みの様子や様々な学習の内容、そして会員の思いを知り、考えることで、解放子ども会を自らのもとに引き寄せ、自分ならばどう行動するかを学ぶことができると考え、本題材を設定した。

2 学習のねらい

中学校の同和教育問題を考える導入の一つの方向として、学級の仲間や解放子ども会員とともに、解放子ども会のあり方を学ぶことを通して、今後の学校生活において、いじめや差別をなくすために自分は何が出来るか考えることができる。

3 指導計画（1年生、後期同和教育集中月間、単元計画）

時間	学 習 内 容	活動内容・指導など
1	差別は身近にある？	・差別は身近にあることに気づき、それに対して自分はしたらよいか考える。
5	「解放子ども会の歌詞」に込められた願いを学ぼう	・解放子ども会との合同学習会で扱ったワークショップの教材を行うことで、解放子ども会の活動に対する興味・関心を持つことができる。 ・「解放子ども会のうた」を聴き、歌詞の意味や内容を考え、調べる。 ・解放子ども会員との合同学習会を通して、解放子ども会に寄せる人々の願いや、会員が行っている活動・願い・取組を知ることができる。 ・「解放子ども会の歌」に込められている歌詞から、解放子ども会に通う人々の願いを考える。

1	まとめ	・解放子ども会の願いや、活動の様子から学んだことを通して、今後の学校生活にどう生かしていくか考える。
---	-----	--

4 具体的な活動内容

A 題材名「解放子ども会の歌詞に込められた願いを学ぼう」

B ねらい

「解放子ども会のうた」を聴き、その歌から伝わってくる印象を大事にしなが、解放子ども会で学び、差別を見抜き、差別に負けない、差別をなくす子どもの育成を願う人々の思いを、歌詞を基に考えることができる。

C 指導上の留意点

- ・言葉の意味にとらわれず、直感的印象を大切にしてお考えられるようにする。
- ・必要に応じて、荊冠旗^{けいかんき}を掲示したり、言葉の説明をしていく。
- ・合同学習会で学んだことをもとに考えられるようにする。

D 実践記録

【第3時】

時間	生徒の活動	指導・支援
はじめ 05'	1 長野県部落解放子ども会大会のようすをビデオで見る。 ・自分の思っていた解放子ども会とはちょっと違って、ビデオを見たらすごいなと思った。	1 子ども会大会に参加してきた同和教育特別委員にその時のようすを聞き、解放子ども会への関心を高めさせる。 ・「解放子ども会のうた」を聴かせ、その後歌詞を読む。
なか 35'	2 歌の印象を発表する。 ・闘ってきたことが輝く歴史といていることが印象的。 ・荊冠旗とピオニールの意味を知りたい。	2 歌に対して、どんな印象を受けたか、また、特に印象に残った言葉があったら発表させる。 ・荊冠旗を黒板に貼る。「見たことある人？」と問い、挙手させる。 (挙手4/5)
おわり 10'	3 歌に込められている願いを考える。 ・みんなで団結して、部落差別を自由や平等にかえていこう。 ・部落完全解放を願っている。自由と平等を願っている。 ・部落差別をなくしていこう。 ・差別を批判し、差別をなくすまでみんなでがんばっていこう。 ・解放子ども会のみんなで団結して、差別をなくして自由や平等にする。 4 疑問や調べたいことを発表する。 ・なんで荊冠旗をつくったか。マークの意味は。 ・何年ぐらい子ども会をやっているか。 ・なぜピオニールは闘い続けているか。	3 この歌に込められている願いはどんなことか考え発表させる。 4 もう一度「解放子ども会のうた」を聴かせ、歌詞の中から疑問、調べたい言葉、知りたいことを発表させる。

<ul style="list-style-type: none"> ・「かかげてあゆむ仲間たち」とは何か。 ・ビデオで、大人も子どもも着ていたベストみたいなのを書いてあった言葉はなにか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時からの調査活動の内容を整理させる。
--	--

【第6時】

時間	生徒の活動	指導・支援
はじめ 05'	1 解放子ども会の活動の目的と願いを考え、発表する。	1 これまで学んできたことを振り返りながら、解放子ども会の活動は何を目的にし、どんな願いがあるのか考え発表させる。
なか 40'	A生－会員は自分の決意を持っていて、差別をなくそうと思っている。そういう仲間がいるから、自分もがんばろうっていう願い。 B生－差別をすべてなくそう、ということを中心に、やっぱり差別はなくそう、差別はやめようという願い。 C生－いじめや差別をなくすための目的。だれとでも交流をする。差別・いじめがなくなればいいという願い。	
おわり 05'	2 みんなの考えを聞き、自分が考えたことを発表する。 A生－差別をする心をなくすために、いろいろな人に話を聞いたりして、自分がまず勉強する。 C生－みんな差別のことについて、真剣に考えてくれそうなのでよかった。私も真剣に考えていきたい。	2 みんなの考えを聞き合い、自分が考えたことを発表させる。 3 本時、全員の思いが語られるよう、発言を促す。

E 教材、資料

- ・「解放子ども会のうた」歌詞
- ・1999年度長野県部落解放子ども会大会（中野市）のようすのビデオ

F 指導上の留意点や指導体制

- ・解放子ども会の学習は、いじめや差別についての学習が中心であり、その解消のための活動に力点が置かれている。また、解放子ども会員は、校内の同和教育特別委員会に参加し、いじめや差別をなくすための学習や活動も行っている。会員が所属するクラスの中でも、他の同和教育特別委員と協力しながら合同学習会などで行った活動をクラスに伝えるなどの活動を前向きに行っている。会員の保護者たちは、同和問題に対し、正面から取り組んでほしいと考えている。
- ・「解放子ども会のうた」の歌詞を調べるにあたり、同和教育推進教員や解放子ども会員の協力を得て調べることができた。

5 評価

～授業を通して（生徒の感想から）～

中1になって同和教育の学習をしてから「差別」ということに少しずつ関心をもつようになった。昔は、「差別」はただ「いけないな」としか思っていなかった。だけど、今はちがう。本気で「差別」についてもっともっと知っていきたいと思っている。ただ、知っていたけどそのまましておくのではなく、これからは勉強したことを、いっぱいいっぱい生かしていきたいと思っています。

「解放子ども会のうた」に寄せる願いについての話を聞いて、みんなが出してくれた感想は、「自分たちも同じような活動をしていきたい」、「真剣に勉強したい」、「自分も努力したい」など、みんながそれぞれ真剣に差別をなくそうとしている感想が出ました。私は解放子ども会で、差別のことなどについていろいろ勉強しているけど、みんながそこまで差別をなくそうとしていてくれて、うれしくなりました。この学習を通して、これからもクラスで何かあったら話し合ったり、子ども会でもたくさん勉強して、いじめや差別のない社会を作りたいです。

もしもこの世界から差別といじめがなくなったら、それは世界がつながった印だと思います。例えば、cさんは、aさんとbさんと仲がいいとすると、aさんとbさんは全然知らない人同士だけど、cさんが中に入っていることで、aさんとbさんはつながっていることになるから、世界につながっていることになると思います。今はうまく言えないけど、そのうち私たちが大人になった時には、なるべくみんながつながっているような世の中になっているといいと思います。そのためには、今のこの時間が大切なんだと思うので、みんなと仲良くしたいです。



6 成果と課題

【成果】

- ・疑問や調べたいことを発表させる中で、歌詞から解放子ども会に対する疑問も出てきた。小学校の時から交流している解放子ども会ということもあり、主体的に興味を持つことができた。
- ・これまで受け身的な活動であったが、自らの興味・関心で合同学習会に参加したことにより、解放子ども会に寄せる人々の願いを実感し、自らの関わり方を問い直した生徒もいた。
- ・身のまわりの人間関係などに、もっと目を向けていく必要性を感じ取らせることができた。

【課題】

- ・解放子ども会がなぜ作られたのかや、どんな活動をしているのかに学習の中心が置かれたので、身近な人間関係の問題から、いじめや差別をなくしていこうという日常的な実践力の育成まで高めることはできなかった。